

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月30日現在

機関番号：12201

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21720108

研究課題名（和文） 十八世紀フランスの思想と文学の相関関係

研究課題名（英文） Philosophy and literature in the eighteenth century in France

研究代表者

田口 卓臣（TAGUCHI TAKUMI）

宇都宮大学・国際学部・准教授

研究者番号：60515881

研究成果の概要（和文）：本研究は、十八世紀フランスの先鋭的な思想家たちの特にフィクション作品群の形式と内容の相関関係を検証することに努めた。その結果、主に、(1)モンテスキューの書簡集小説『ペルシア人の手紙』が、書簡、翻訳、寓話、風刺などの文学的な仕掛けを介して表現しようとする専制批判の思想、(2)ディドロの小説群が、語り、筋、対話、比喻などの文学的な仕掛けを介して語ろうとする人間存在の限界の認識、を解明することができた。

研究成果の概要（英文）：The present study aimed to explore relationship between the form and the content of the fictions written by radical French philosophers in the eighteenth century. In the result, two points were especially clarified: (1) literary mechanisms of *Lettres persanes*, such as letters, translations, allegories, and satires, by which Montesquieu represents his critical attitudes toward the despotism, and (2) literary mechanisms of Diderot's novels, such as narratives, plots, dialogues, and figures, by which he represents the idea of "the limitations of the human beings."

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
2012年度	400,000	120,000	520,000
年度			
総計	1700,000	510,000	2210,000

研究分野：仏文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：思想と文学

1. 研究開始当初の背景

本研究は、これまで「啓蒙の世紀」という安直な呼称のもとで一括されてきた十八世紀フランス文化史の多様性・複雑性を根底から検証しなおす試みとして開始された。その際、思想内容のみを抽出して整理する思想史の

方法も、自律的ジャンルとしての文学を前提とすることで成立する文学作品の解釈手法もともに廃棄し、むしろ文学的諸形式を介して思想を語ろうとする十八世紀フランス特有の方法にこそ注目することにした。この研究の出発点の背後には、(1)なぜ、いかにして、文学的形式を介して思想を語るのか？、(2)

文学的形式を介してしか語りえない思想があるとすれば、それはいかなるものなのか？、(3)文学的形式が思想内容にもたらす美学的・イデオロギー的効果とはいかなるものか？、(4)文学的形式そのものに一種の思想性・メッセージ性があるとすれば、それはどのようなものか？、という四つの問いが控えていた。

2. 研究の目的

本研究は、十八世紀フランスの先鋭的な思想家たち（モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ディドロ）が、神学的宇宙観・人間観の崩壊によって生じた深刻な思想的危機を乗り越えるために、さまざまな文学的形式を介してみずからの思想を表現するという画期的な方法を創出したことを跡づけ、再評価することを第一の目的とした。また、この検証作業を通じて、十八世紀フランス文化の根源的な特異性を明らかにし、いまだに根強く残るこの時代への思想的・文学史的偏見を一掃するとともに、「思想史と文学史の総合」という人文科学の普遍的な課題にひとつの道筋を切り開くことを第二の目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、十八世紀フランスの思想家たちのフィクション作品における言説編成の仕掛けとその美学的・イデオロギー的効果を検証するという方法をとった。具体的に言えば、本研究は、以下の二つの方法に基づくものであった。(1)フィクション作品群におけるメタ言説的・自己解説的な言表の分析を通して、言説編成の仕掛けを解明する。(2)この言説編成の仕掛けに基づいて組織される修辞技法、詩的想像力、物語の構造、文学ジャンルの設定（演劇、対話、寓話、書簡、風刺、断片、小説）などが、作品の思想内容そのものにどのような仕方で、いかなる変容を迫っているのかを解明する。

4. 研究成果

本研究はこれまで、(1)モンテスキューの書簡小説『ペルシア人の手紙』における政治思想（専制批判）と文学的仕掛け（書簡集、翻訳、寓話、風刺）の相関関係、(2)ディドロの小説作品群における思想（人間の理性の限界の認識）と文学的仕掛け（語り、筋、比喩、描写）の相関関係、(3)寛容思想の系譜におけるヴォルテールの位置づけ、とりわけ演劇的な構造を介して寛容思想を語る彼の名著『寛容論』の思想史的な位置づけ、の三点について、検証作業を進めてきた。

上記の(1)に関連する具体的な成果として

は、雑誌論文⑥、⑪、⑬、⑭を挙げることができる。とりわけ雑誌論文⑬は、さまざまな文学的な仕掛けを介して、専制批判の思想を重層的に発信しようとするモンテスキューの思想的・文学的方法の解明に成功したものである。

上記の(2)に関連する具体的な成果としては、雑誌論文⑦、および図書①を挙げることができる。とりわけ図書①は、作品のマクロな次元からミクロな次元にいたるまで多様な文学的形式・表現を介して、人間の理性の限界の認識を提示しようとするディドロの思想的・文学的方法を徹底的に解明したものである。この書物は、ディドロの小説に関する日本初の研究成果であり、第27回渋沢・クローデル賞特別賞（2010年）を受賞するなど、社会的にも高い評価を受けた。

上記の(3)に関連する具体的な成果としては、17世紀から現代にいたるまでのヨーロッパを中心とする寛容思想の系譜について検証した雑誌論文⑨を挙げることができる。この寛容思想の系譜のなかで、ヴォルテール『寛容論』独自の思想的・文学的方法がどのような位置を占めるのかについては、検証作業を進めている最中である。

このほかに、(1)ディドロの「思想とその表現方法」に関する最も重要な先行研究（ハーバート・ディクマン『ディドロに関する五つの講義』Herbert Dieckmann, *Cinq Leçons sur Diderot*, Genève, Droz et Minard, 1959. 所収の二論文）の翻訳と解題、(2)ディドロの『自然の解明に関する断想』における科学思想と文学的形式の相関関係に関する研究、の二つを進めている。前者は2013年度中の刊行を予定しており、後者は『思想』（岩波書店）において全5回連載中の第一回目がすでに発表されている（雑誌論文①を参照）。

なお、本研究を開始して以来、モンテスキューとヴォルテールに関する基本文献（全集、研究書）を収集することができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

- ① 田口卓臣「ディドロ『自然の解明に関する断想』精読（1）——合理主義と経験主義の間で」『思想』岩波書店、査読無、1065号、2013年1月、pp.6-12.
- ② 田口卓臣「偏差から構造を読み解く——帰納主義への批判 18世紀の思想家ディドロの研究から」『UUnow』宇都宮大学企画広報誌、査読無、28号、2012年7月20日、pp.10-11.
- ③ Yoichi Sumi, Takeshi Koseki, Takumi

Taguchi, et alt., “Puiser aux sources de l’Encyclopédie”, *Recherches sur Diderot et sur l’Encyclopédie*, 査読有, n.46, 2011, pp.227-231.

- ④ 田口卓臣「45人へのアンケート：2011年上半期の収穫から——大橋完太郎『ディドロの唯物論』、レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、J・M・グールド『低線量内部被曝の脅威』、『週刊読書人』、査読無、2898号、2011年7月22日、学術思想欄、5面
- ⑤ 田口卓臣「来たるべき啓蒙の曙光——哲学史の常識をくつがえす記念碑的大著：大橋完太郎『ディドロの唯物論 群れと変容の哲学』(法政大学出版局)、『週刊読書人』、査読無、2886号、2011年4月22日、学術思想欄、4面
- ⑥ (翻訳) 田口卓臣「モンテスキュー『ペルシア人の手紙』その3」、『外国文学』、査読無、60号、2011年、pp.177-184.
- ⑦ 田口卓臣「驚きに発し、驚きに終わる——ディドロの『運命論者ジャックとその主人』について」、『青淵』、査読無、741号、2010年、pp.22-25.
- ⑧ 田口卓臣「言葉への畏怖」、『日仏会館通信』、査読無、127号、2010年、pp.2-3.
- ⑨ 田口卓臣「価値、利害、共生——下川、井上、ラズにおける寛容思想」、『宇都宮大学国際学部研究論集』、査読無、30号、2010年、pp.87-102.
- ⑩ 田口卓臣、中村真、松尾昌樹、清水奈名子「書評：『グローバル世界と倫理』を読む」、『宇都宮大学国際学部研究論集』、査読無、29号、2010年、pp.83-104.
- ⑪ (翻訳) 田口卓臣「モンテスキュー『ペルシア人の手紙』その2」、『外国文学』、査読無、59号、2010年、pp.105-118.
- ⑫ Yoichi Sumi, Takeshi Koseki, Takumi Taguchi, et alt., “Pour une édition critique informatisée de l’Encyclopédie : quelques précisions sur les métadonnées”, *Recherches sur Diderot et sur l’Encyclopédie*, 査読有, n.44, 2009, pp.207-218.
- ⑬ 田口卓臣「コピー・ペーストの時代に「独創性」を再考する——モンテスキューの『ペルシア人の手紙』における「剽窃」の問題」、『宇都宮大学国際学部研究論集』、査読無、28号、2009年、pp.55-73.
- ⑭ (翻訳) 田口卓臣「モンテスキュー『ペルシア人の手紙』その1」、『外国文学』、査読無、58号、2009年、pp.115-119.

[学会発表] (計 4 件)

- ① 田口卓臣「偏差、怪物、災厄——18世紀思想と災害・公害の文学を架橋する」、言語態シンポジウム「災害と文学」、東京大

学駒場キャンパス 18 号館、2012 年 7 月 29 日：武田将明、辛島デイヴィッド、佐藤嘉幸との対談

- ② 田口卓臣「来たるべき啓蒙のビジョン——大橋完太郎『ディドロの唯物論』を読む」、表象文化論学会講演会パネリスト、東京大学駒場キャンパス 18 号館、2011 年 11 月 12 日：大橋完太郎、國分功一郎、宮崎裕助との対談
- ③ 田口卓臣「「啓蒙」の複数性をどうとらえるか」、人文社会系若手研究者セミナー、日仏会館、2011 年 1 月 29 日
- ④ 田口卓臣「「市民的公共圏」その可能性の条件——ハーバーマスの 18 世紀市民社会論を、18 世紀の思想と文学から逆照射する」、「国際化と日本」公開講座、宇都宮大学峰キャンパス、2010 年 10 月 23 日

[図書] (計 1 件)

- ① 田口卓臣『ディドロ 限界の思考——小説に関する試論——』風間書房、2009 年、300 頁。(第 27 回渋沢・クロデル賞特別賞)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/life/profile/profile_taguchi.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田口 卓臣 (TAGUCHI TAKUMI)
宇都宮大学・国際学部・准教授
研究者番号：60515881

(2)研究分担者
なし

研究者番号：

(3)連携研究者
なし

研究者番号：